

科目コード	記号	科目名			
3004	SG35	国語Ⅳ: JapaneseⅣ			
教員名	岩城 賢太郎 : IWAGI Kentarou				
学年	単位・時間	必修・選択	授業形態	単位種別	
4S	1・100分	必修	講義・後期	学修単位	
授業概要	<p>日本古典の和歌を材料に、プレゼンテーションのための資料の作成、及び発表のしかたを学ぶ。 受講生は、『百人一首』などから、プレゼンテーションで採り上げる歌を選び、①当該歌について、調査・情報収集を行う、②収集した情報を分析し、プレゼンテーションの資料を作成する、③クラスでプレゼンテーションや質疑応答を行う、④クラスでの質疑応答や他の受講生のコメントの内容をもとに、プレゼンテーションの資料を修正、改編し、レポートとして提出する。</p>				
到達目標		評価方法			
<p>(1)プレゼンテーションに備え、調査・情報収集を行い、収集した情報を正確に分析・処理することができる。 (2)聴衆を意識した、見やすく、分かり易い資料(口頭発表用の資料)を作成することができる。 (3)聴衆の興味をひく、効果的なプレゼンテーションを行い、質疑応答に的確に応じることができる。 (4)プレゼンテーションの内容を正確に理解し、的確に、公正に論評することができる。 (5)文章の資料(文書として読む資料)を作成することができる。</p>		<p>①プレゼンテーションの内容、②レポート・定期試験、により評価する。学期末最終評価は、①40%、②60%とする。 受講生に対する評価は、プレゼンテーションの内容、質疑応答への参加度、「コメントカード」の内容、レポートの内容などを、総合的に加味して行う。</p>			
学習・教育目標	(G)①	JABEE基準1(1)	(f)		
後期					
授業計画	回	項目	内容		
	第1	ガイダンス①	和歌文学、及び『百人一首』について概説する。 クラスで行うプレゼンテーションの内容や、プレゼンテーションの際に用いる資料について、受講生と相談しながら、備えるべき要件を決定する。		
	第2	ガイダンス②	受講生のプレゼンテーションの順番を決める。 教員の側より、プレゼンテーション資料の作成例などを示す。		
	第3	プレゼンテーション①	プレゼンター(発表者)は、プレゼンテーションの1~2週間前までに、教員にプレゼンテーションの内容について相談、指導を受けた上で、1時間に2~4名ずつ、クラスで順番にプレゼンテーションを行ってゆく。		
	第4	プレゼンテーション②	(プレゼンテーションの内容や方法は、受講生の意見を探り入れながら、順次、変更・追加されてゆくため、クラスの回を追う毎に、より程度の高いプレゼンテーションが求められることになるであろう。)		
	第5	プレゼンテーション③	プレゼンテーションを行う和歌は、『百人一首』から1首選ぶこととするが、『百人一首』以外の和歌でも構わない。(採り上げたい和歌がある場合は、調査方法などについてアドバイスをするので、教員に相談すること)		
	第6	プレゼンテーション④	プレゼンテーションについては、作者・歌の解釈・修辭法の説明など、基本的な項目をクラス全体で設定する予定であるが、何に重点を置いてプレゼンテーションを行うか、他に何の項目を設定するかは、プレゼンターの自由である。『百人一首』は、現代に至るまで、絵画や着物、調度品など、文学作品以外にも、様々なものの意匠に採り入れられている。プレゼンテーションの内容は、文学的な事項にばかり注目する必要はなく、プレゼンターのアイディア次第である。		
	第8	プレゼンテーション⑥	プレゼンターは、事前に十分な調査・情報収集を行って欲しい。良いプレゼンテーションは、正確で十分な調査があつてはじめて、成り立つものである。表面上のプレゼンテーションの巧みさや見かけだけの資料の美しさばかりでは、高い評価は受けられない。プレゼンテーションのしかたについては、クラスでの実践や他の受講生の意見などを参考に、徐々にテクニックを身に付けて行けば良い。		
	第10	プレゼンテーション⑧	プレゼンター以外の受講生は、プレゼンテーションについて、疑問点や優れた点などを指摘し合い、質疑応答に参加する。また、毎時間、プレゼンターに向けて、内容・資料の2点について、優秀の論評やアドバイスを、「コメントカード」に記入し、プレゼンターに提出する。		
	第11	プレゼンテーション⑨	プレゼンターは、質疑応答や「コメントカード」の内容を参考に、資料の内容を補足・修正し、プレゼンテーションのための口頭発表用の資料を、口頭発表を伴わない、読む資料として作り替え、プレゼンテーション終了後、2週間以内に、「コメントカード」と共に、担当教員にレポートとして提出する。		
	第13	プレゼンテーション⑪	こまめに辞書を引き、資料の漢字や表記に注意すること。 現代社会における語義や用例などについて解説されている辞書(明鏡・大修館書店、など)や、表記上の注意事項をまとめた書籍(新しい国語表記ハンドブック・三省堂、など)を、適宜		
	第14	プレゼンテーション⑫			
	第15	プレゼンテーション⑬			
	関連科目	国語Ⅰ、国語Ⅱ、国語Ⅲ			
	教科書				
参考書	カラー版新国語便覧(第一学習社)、国語辞典、表記ハンドブック、など。				
授業評価・理解度	最終回到授業アンケートを行う。				
副担当教員					
備考					